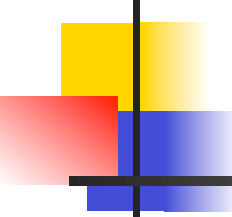




欧米流アジャイル開発導入の 問題点と克服方法

テクノロジーアート
長瀬 嘉秀



アジェンダ

- アジャイル開発の概要
- 日本のソフトウェア開発
- 欧米流アジャイル開発との違い
- 日本式アジャイル開発



アジャイル開発のはじまり

- XPブーム
- 2000年12月
- XPエクストリーム・プログラミング入門発売
- Kent Beck著

XPのプラクティス

計画ゲーム
Planning Game

コーディング規約
Coding Standard

短期リリース
Small Releases

全員同席
Sit Together

メタファ
Metaphor

最適ペース
Sustainable Pace

シンプル設計
Simple Design

常時結合
Continuous Integration

テスト駆動開発
Test Driven Development

コード共同所有
Collective Code Ownership

ユーザーテスト
Customer Test

ペアプログラミング
Pair Programming

設計改善
Design Improvement
Refactoring



アジャイルプロセスとは

1. プロセスやツールよりも**個人との相互作用**
2. 包括的なドキュメントよりも
動作するソフトウェア
3. 契約交渉よりも**ユーザとの協調**
4. 計画に従うよりも**変化に対応する**



アジャイルアライアンス

- 2001年2月にユタ州で開催
- 参加者
 - Kent Beck, Alistair Cockburn,
 - Ward Cunningham, Martin Fowler,
 - Jim Highsmith, Ron Jeffries,
 - Stephen J. Mellor, Ken Schwaber, Dave Thomas
など

アジャイルアライアンス <http://agilemanifesto.org/>



多くのアジャイル関連書籍の出版

初期のアジャイル開発に対する 取り組み



- 技術的な勉強
- 小規模プロジェクトでの実験
- 上司を説得する方法の検討
- 普及、コミュニティ活動



普及促進者

- エンジニア
- 先進的なソフトハウス
- ベンダーの研究部門

- 開発現場のマネジャーは興味を示さず



日本のソフトウェア開発

- ゼネコン式
- ウォーターフォールプロセス
- 大人数
- ドキュメント中心
- 日本的な品質確保方法
- 非オブジェクト指向

開発プロセスの変貌

日本

ウォーターフォール



アジャイル? 2011年

米国

ウォーターフォール

イテレーティブ (UMLによる繰り返し)

アジャイル 2002年



日本での開発プロセス

- ウォーターフォールを極めた
- エクストリーム・ウォーターフォール

- 品質
- テスト

- 顧客からの品質要求



アジャイル開発適用の問題点

- 契約
- 派遣法
- 教育
- 品質
- テスト
- 顧客の同席



欧米流アジャイル開発との違い

- ソフトウェア開発の土壌が違う
- エンジニアの職種が違う
 - SE、PG、テスター
- 最新ツールはアジャイル対応
 - ウォーターフォール開発はできない
- 品質、テストへの取り組み

日本流アジャイル開発

■ 例 日立ソリューションズ COMMONDATION-ReeL

- 日立ソリューションズでは、日本でも適用可能な大規模システム開発向けのアジリティ開発手法「COMMONDATION-ReeL」を開発。



「COMMONDATION」は、株式会社日立ソリューションズの登録商標です



- 日立ソリューションズ独自部分を取り除いた部分を Open@ReeL として公開。





続き



続き



グローバル化

- オフショア開発
 - 分散開発
-
- インド、中国、ベトナムなどではウォーターフォールの開発の教育はない
 - グローバルには、アジャイル開発の基礎となる技術を習得している



今後の動向

- アジャイルからカンバンへ
- アジリティの対象がソフトウェア開発だけではなく、製品やサービスの企画からリリース運用までに拡張



カンバンの例

David J. Anderson & Associates Inc. より出典

David J. Anderson & Associates Inc. より出典



カンバンの例続き



今後の展望

- アジャイル開発を実践している業界
 - ゲーム、ネット系サービス、一部の組み込み
- 業務システムもアジャイル開発へ
- オフショア開発でアジャイルも加速
- 新しいカンバンなどへ移行

- 人材育成、オフショアなのか